

Vol.10 子どもの権利条約が実現される“居場所”

子どもの権利条約

子どもの権利条約内に「居場所」に関する条文はありませんが、以下の3つの条項を実現するためには「居場所」が必要だと考えました。

第12条
意見を表す権利

第13条
表現の自由

第31条
休息・レクリエーション

Since 2003~

ダンスを通して心と身体を開放し、ありのままの自分を表現する

お互いを認め合う

ダンスワークショップ PUZZLE



PUZZLEのメンバーにきました

前田月季花さん 中2

私は、PUZZLEを5年続けています。なぜ続けられたかという

と、『人との関わりを感じられる』からです。私は、学校などの同年代の人たちの中ではどちらかと言うと頼られる方だったので、PUZZLEの中では人に頼ることができとても居心地が良いものだったからです。

さて、私が思う居場所とは何かと考えました。

居場所としての大前提は、ここに居たいと思えることだと思います。

私は、学校が辛くなった時PUZZLEに救われました。ありのままの自分でいられたことと、大切な親友など心を開ける人が沢山いたからだと思います。

人によっては居場所が違うけれど皆共通しているのは、「居場所が必要ない人はいない」ということです。

私は、PUZZLEという居場所ができて良かったと心から思っています。



先月号で、家庭が必ずしも安心できる居場所になっていないこともあるとお伝えしましたが、学校においても不登校者数は年々増えていて社会的課題になっています。また、内閣府の自殺対策白書によると18才以下の自殺者が突出して多い日が9月1日で、これも以前から問題になっています。自殺まではいなくても、生きづらさを抱えている子どもはたくさんいるのではないのでしょうか。

今月は、家庭や学校以外でも子どもが安心できる「第3の居場所」について記事にしました。

Since 2002~

トムソーヤの森の家

20人の仲間と自然の中で自由に過ごす



子どもの権利条約を実現！

“居場所”になっているスペースの事業

Since 2004~

キミ子方式絵画ワークショップ

「絵は自由に描くものではありません
自由になるために描くのです」
松本キミ子

描き始めの1点を決め、隣へ、隣へと描いていく。
嫌になったらやめてもいい。

半分食べたいちごとか
編みかけの帽子とか



私とスペース 前田智春さん



ぼくは小さいときからスペースにいます。ともだちと遊んだり、ときどきけんかもしていました。ぼくはお母さんにつられてスペースに行っていたので、週に1回はスペースに行っていました。

2012年からAVECマンというもの(ぼくとお母さんの日常の一コマ)みたいなものを書いていました。ぼくは、そんな気にしていなかったのでよくわかりませんでしたが、中学の入学いわいとしてAVECマンをまとめた物ももらいました。はずかしいことばかり書いてありました。例えば小学生のRくんに住所を聞かれてくらすし!!と言ったりしたそうなのでもっとはずかしいです。だけど成長した所が良い事も書いてあったりするので、たまにAVECマンのまとめたもの読んでがんばろうと思うことがあります。



他にもあります こんな居場所

川崎市子ども夢パーク

市の施設で入場無料。「川崎市子どもの権利に関する条例」の理念を基に、子どもが自分の責任で自由に遊び、学び、つくり続けていく子どもの居場所・活動拠点となる施設。学校外で子どもたちが多様に育ち、学ぶことを保障する場として、「フリースペースえん」を開設している。

NHK ドキュメント72時間 9/2(金)放送
「“どろんこパーク”雨を走る子どもたち」を観て

ここでは、『大人が子どもの「やってみたい!」に手出し口出ししないこと』がルールです。子どもたちは、雨の中で踊ったり、泥の池にスライダーで飛び込んだり、思い思いにやりたいことをやっていました。それを大人のボランティアやスタッフが見守っています。

学校に居場所を見いだせない子どもたちは傷ついて、元気をなくしていたようです。でもここで自分のやりたいことをやることで、元気になり自分を取り戻しているようでした。あるお母さんは、家庭で子どもをしつけようと頑張ったけど思うようにいかず、子どもとふたりで追い詰められていたのですが、スタッフやボランティアの人たちが子どものありのままの姿を認めるのを見て、自分もそう思うようになったそうです。

学校でも家庭でも、いろいろな理由で傷ついたり自信を失っている子どもがたくさんいます。そんな子どもがそのままであられ、本来の自分を取り戻していくために、第3の居場所が必要なのではないでしょうか。(下村)

映画になった! 「ゆめパのじかん」

川崎市子ども夢パーク(=ゆめパ)を舞台に、子どもたちのかけがえのない“じかん”を3年にわたってみつめたドキュメンタリー

2022年7月より全国順次公開中



ホームページ

今月の一冊 「ロンドン橋がおちます!」



ピーター・スピア/絵
渡辺茂男/訳
復刊ドットコム(1980円)

マザーグースの中でも一番知られたこの歌は、誰でも歌ったことがあるはず。でも、落ちた後は?

ロンドン橋の歌の続きは、なんと18番まであって、落ちた橋は、木にねんど、鉄、じゃりと石、金銀。盗まれないよう見張り番、犬と続き、笑ってしまいます。それでは、今の橋になるまでは?という歴史は巻末にあり、じっくり読んでしまいました。

伝説では西暦紀元前43年ブリテン侵攻からまもなく架けられたというロンドン橋は、洪水や火事、戦争によって何回も破壊され、架けなおされたそうです。数千年にも及ぶ、やり直しの歴史に感動!
ポジティブなリズムが流れるこの本、絵も素敵です。ぜひ今一度読んで!(野崎)

9月のスペース

毎週木曜日は、スペースにヤクルトさんがやって来る日。

「こんにちは。ヤクルトです」の声に子どもたちが集まってきて、ヤクルトさんの前に列ができます。ほしいものがすぐ決まる子もいれば、ひとしきり悩む子もいますが、握りしめたお金でひとりずつお買い物。

「うちの子、今日が初めてなん」と離れて見守るお母さん。並ばず前に行っちゃって「順番ぬかしたらあかん」と列の最後尾に連れていかれて泣いている子。

やがて自分で買った物を満足そうに飲みはじめ、その場は落ち着きます。

第三者の目で見てみると、とても楽しいひとときです。

お仕事とはいえひとりひとりにやさしく対応してくれるヤクルトさん、飲んだあとのゴミを持ち帰ってくれる皆さん、いつもご協力ありがとうございます。(高橋)



*この欄は事務局のメンバーが交代で書きます。